

TNB58だより



平成 28 年 3 月号

平成 27 年度も残すところわずかとなりましたが、一年を振り返り、しっかり自己採点してみましょう。想像以上にできたところ、力を入れたにもかかわらず成果が上がらなかったところ、たくさんの喜びと反省が思い出されることと思います。それらを来年度にどうすれば生かすことができるのか、一歩ずつ成長の軌跡を残していってください。学級経営の基本をもう一度確認し、また、一から学級づくりを始めましょう。

子どもに向き合い、子どもとかわる

担任としての心構え

学級経営をする上で、自分が大切にしたいと思うことを子どもたちに明確に示しましょう。しかし、すべてを押しつけてしまっては子どもの自主性は育ちません。

☆年度初めや学期初めに、自分が目指す学級目標、それを達成するための学級経営の方針を示し、子どもたちが努力することを明らかにしましょう。

☆これだけはしてはいけないというラインを、子どもに示しておくことが大事です。特に人の心や体を傷つける言動に対しては、「決して許されることではない。」と、厳然と指導しましょう。

☆最低限のものは別として、学級のめあてや約束事は子どもと一緒に作ります。押しつけられたルールよりも、自分たちで決めたルールの方が大切にしようとするものです。また、みんなができること・具体的なルールにしましょう。達成できたら認める姿勢が大切です。同時に学校のルールも確認しておきます。「なぜそのようなルールがあるのか」を説明できることが大切です。



☆子どもは、教師の行動や表情、発言をよく見てよく聞いています。まず、担任である教員自身が子どもたちのモデルとなりましょう。

一人一人を見る

担任として「子どもが安心できる存在」になるために、どの子にも分け隔て無く、愛情をもって接しましょう。

☆子どもを一人の人間として接することが大切です。子どもを見下してはいけません。

☆特定の子とだけ親しくせず、一人一人の子と真剣に向き合える教員になりましょう。

☆子どもとの距離は遠すぎず近すぎず。厳しさと、優しさをもち併せましょう。甘やかすだけでは「先生」ではなく「友だち」になってしまいますし、厳しいだけでは子どもは離れていきます。

☆子どもに安心感を持たせることはとても大切です。「困っていれば助けてくれる」「頑張ればほめてくれる」「一緒にいると楽しい」と思われるような教師をめざしましょう。

☆子どもとの約束は必ず守りましょう。どんな小さな約束でも、大切にするようにします。

☆できる範囲で子どもたちに仕事を頼んで任せましょう。自分は必要とされているということを実感し、自己肯定感や自己有用感が育ちます。

☆子どもの名前はしっかり覚え、早く呼べるようにしましょう。学級開きまでに名前をフルネームで覚えておくことで子どもとの距離はぐっと縮まります。

☆授業中などで子どもの名前を呼ぶときには、「さん」を付けます。信頼関係があるからと呼び捨てやニックネームで呼ぶことがありますが、避けた方がいいでしょう。

子どもをほめる・子どもを叱る

つつい出来なことに目が向きがちですが、どの子どもにも、必ず良いところがあります。それを見つけて、どんどんほめましょう。

☆ほめることで自己肯定感や自己存在感が育ちます。良かったことや出来たことをどんどんほめましょう。子どもや学級の実態に応じて、時には友だちの前で、時にはさりげなくその子だけにそっと声をかけることも良いでしょう。

☆どこが良かったのか、考え方や行動等を具体的に伝えてほめることを心がけましょう。

☆子どもたち同士が頑張りを認め合えるようにすると、高め合う学級づくりが出来ます。

☆子どもたちの作品、提出物は頑張りが目に見える形で表れたものです。ていねいに目を通し、言葉を添えて返しましょう。

☆何かを指摘する際は、いくつかほめてから1つ指摘するといった工夫も大切です。

☆叱るときは、本気で叱ります。ギャップを生かすことが大切です。

☆長時間のお説教や怒鳴り声は、教師の伝えたいことが伝わっていないことが多くあります。

「出来るだけ早く(その場で)、短く」が原則です。相手が落ち着いて話を聞ける状態であれば静かな声で叱る方が効果的な場合もあります。



学級の雰囲気づくり

子どもたち全員が居心地のよい学級づくりを目指しましょう。「自分が認められている」と子どもたちが感じられる環境づくりを大切に。

☆子どもが安心して1日を過ごせるあたたかい環境づくりを心がけましょう。(一人一人の居場所がある学級、役割があり活躍の機会がある学級など)

☆決められたルール・与えられた役割を守る雰囲気を作ります。クラス内の自由と規律のバランスが大切です。

☆子ども主体の学級を心がけます。子どもの意見が反映される仕組みを作ることが大切です。

☆1つのことを学級で成し遂げたり、しんどいことを乗り越えたりする経験を通して、達成感・成就感を味わわせ、感動ある学級づくりを心がけましょう。

☆問題が発生した時こそ、子ども・学級が成長できるチャンスです。他の先生と協力して、じっくりと解決に向けて取り組みましょう。



☆小学校の6年間では、学年が上がるにつれ教師に見えない部分も多くなります。ふとした仕草や言動を気にかけてみましょう。きつい言葉が休み時間などに聞かれるようなら要注意です。

☆何よりも教師自身が「楽しく前向きな学級」づくりを楽しみましょう。教師自身が感動し、喜ぶことが大切です。

(参考：～新規採用教員のための常識ノート～ 「はじめの一步」)